

吉備国際大学研究紀要
 (医療・自然科学系)
 第26号, 1-18, 2016

言語連想検査法WAT-IIの刺激語〈妻〉の連想反応と 老人患者の男女差—明治・大正・昭和の研究

小林 俊雄

**The analysis of a sexual difference between the two sexes of the senile patient's
 associative response to the stimulus word <WIFE> of the Word Association Test
 WAT-II — from a viewpoint of the born period of Meiji, Taisho, and Showa**

Toshio KOBAYASHI

Abstract

This is a research for investigation a sexual difference between the two sexes of the senile 80 patient's associative responses to the stimulus word <WIFE> of the Word Association Test WAT-II. Especially I investigated from a viewpoint of the born period of Meiji, Taisho, and Showa. There are two senile patient samples (male group N=39, female group N=41). As a result of investigation, in the group of the born period of Taisho, there is a statistically significant difference by the significant level at 10%. As to a reaction time of associative response to the stimulus word <WIFE> of the Word Association Test WAT-II ($\chi^2=3.52$ p <0.10), the man group (n=16) of the born period of Taisho showed 1.53 second, and the women group (n=18) of the born period of Taisho showed 3.25 second.

Key words : senile patient, Word Association Test WAT-II, <WIFE>

キーワード：老人患者，連想テストWAT-II，〈妻〉

はじめに

日本では、昭和のはじめに「産めよ、増やせよ」という国家的なスローガンを掲げてから国民人口の増加を見た。当時に生まれた赤ちゃんが、現代の日本で大量の老人人口になっている¹⁾。本研究で、現代の日本の老人の夫婦関係について考えてみたい。

本研究では、言語連想検査法WAT-II²⁾の刺激

語の〈妻〉という刺激語に対する老人患者の連想反応について調査して、老人患者が妻をどのように見ているかについて研究する。

本研究では言語連想検査法WAT-IIの刺激語の連想反応は、32種類の反応分類カテゴリーで分析される。具体的には言語連想検査法WAT-IIで使われているA分析法³⁾の反応分類カテゴリーの中の「ポピュラー反応」⁴⁾という反応分類カテゴリー1

種類と、言語連想検査法WAT-IIで使われているC分析法⁵⁾の反応分類カテゴリーの30種類（「有無反応」・「英語反応」・「エコー反応」・「音韻反応」・「快不快反応」・「感情反応」・「関連物反応」・「聞き誤り反応」・「聞き返し反応」・「繰り返し反応」・「形状反応」・「固有名詞反応」・「材料反応」・「自我滲出反応」・「熟語反応」・「衝動反応」・「色彩反応」・「好き嫌い反応」・「遅延反応」・「定義反応」・「動詞反応」・「におい反応」・「二語反応」・「反対語反応」・「反応不能」・「飛躍反応」・「プライベート反応」・「文章型反応」・「保続反応」・「類語反応」）と、「検査中止」の1種類（したがって「〈妻〉という刺激語については未施行」⁶⁾、など32種類である。

言語連想検査法WAT-IIの刺激語の連想反応の分析法については、このほかに患者の自我防衛レベルについて分析するためのB分析法⁷⁾、言語連想検査法WAT-IIの分析記録用紙を用いた解釈法^{8) 9)}、患者に心理療法をはじめめるための解釈法¹⁰⁾、発達の視点を用いて行う解釈法¹¹⁾、精神病理について解析するための解釈法¹²⁾などもある。

言語連想検査法WAT-IIで老人患者の心理を理解するという先行研究については、「老人患者の自己イメージの男女差」の研究^{13) 14)}、「言語連想検査法WAT-IIの〈セックス〉という刺激語に対する老人患者の連想反応の男女差」¹⁵⁾の研究などがある。夫婦関係についての先行研究については、発病予防の研究^{16) 17) 18)}と満60歳の患者の研究^{19) 20) 21)}などがある。

I 研究の目的

本研究の目的は、老人患者の〈妻〉イメージの男女差について、32種類の反応分類カテゴリーにもとづいて、明治・大正・昭和の視点から臨床心理学的な調査研究を行うことである。

病院の臨床心理業務を通じて蓄積してきた老人患

者の臨床心理記録にもとづいて、老人患者の連想反応について分析する。

II 研究の方法

1. 調査対象

病院の臨床心理業務で、小林俊雄が言語連想検査法WAT-IIを施行した全ての患者の臨床心理記録の中から満60歳を越える患者が調査対象である。

2. 調査期間

本研究の調査期間は、小林俊雄が病院で心理面接をした1975年4月1日から2003年7月31日までである。

III 研究調査の結果と考察

1. 「老人患者全体群」の調査結果

はじめに老人患者全体群について調査分析した。

1) 「老人患者全体群の人数」の調査結果

n=80 (研究1)

1975年4月1日から2003年7月31日までの調査期間内に、小林俊雄が心理面接をした心理初診の患者の全体数はn=3567である。小林俊雄は2歳から93歳までの患者に心理面接をした。小林俊雄が心理面接をした病院は、「精神科の病院」・「リハビリ病院」・「内科病院」・「脳外科病院」などである。

小林俊雄が心理面接をした臨床心理記録の中で、言語連想検査法WAT-IIを施行した満60歳を越える老人患者はn=80である。本研究は、こうして選択された老人患者n=80について研究する。言語連想検査法WAT-IIはすべての患者について小林俊雄が個別法で実施した。

2) 老人患者全体群の「病院別の人数」の分析結果

n=80 (研究2)

老人患者全体n=80の病院別の出現数について

調査した。老人患者全体 n=80の病院別の出現数は、「リハビリ病院」の老人患者が n=63（出現率78.75%）で一番多い、「脳外科病院」の老人患者が n=10（出現率12.5%）、「精神科病院」の老人患者が n=7（出現率8.75%）、「内科病院」の老人患者が n=0（出現率0%）などである（表1）。

3) 老人患者全体群の「年齢」の分析結果 n=80 (研究3)

老人患者全体群 n=80の年齢平均・誕生年・連想検査法WAT-IIの実施年などについて分析した。老人患者全体群 n=80は、平均して大正12 (1923.15)年に誕生して、年齢平均が67.10歳 (SD4.84)である。

表1 老人患者全体群の「病院別の患者数」の分析結果（出現率%） n=80

病院の種類	老人患者の出現数	老人患者の出現率
「リハビリ病院」の老人患者	n=63	出現率 78.75%
「脳外科病院」の老人患者	n=10	出現率 12.50%
「精神科病院」の老人患者	n=7	出現率 8.75%
「内科病院」の老人患者	n=0	出現率 0.00%
老人患者全体	n=80	出現率 100.00%

表2 老人患者全体群の「診断」の分析結果 n=80

老人患者全体群 n=80	出現数個 出現率%	「診断」の出現数。種類。
「脳外科の診断群」	78個 43.57%	「脳梗塞」23個。「左片麻痺」13個。「右片麻痺」8個。「脳血栓」6個。「脳動脈硬化症」5個。「多発性脳梗塞」2個。「脳挫傷」2個。「脳内出血」2個。「両片麻痺」2個。「小脳梗塞」1個。「高次脳機能障害」1個。「くも膜下出血」1個。「被殻出血」1個。「右視床出血」1個。「両脳出血」1個。「脳出血」1個。「脳血管性認知症」1個。「認知症」1個。「前頭部急性硬膜外血腫」1個。「失語」1個。「パーキンソン病」1個。「構音障害」1個。「失名詞失語」1個。「不全四肢麻痺」1個。24種類。
「整形外科の診断群」	26個 14.52%	「頸部捻挫」2個。「腰部捻挫」2個。「大腿骨頸部骨折」2個。「圧迫骨折」2個。「脱臼骨折」2個。「骨折」1個。「頸椎症」1個。「脊損」1個。「脊髄症」1個。「変形性脊椎症」1個。「脊椎腫瘍」1個。「腰椎椎間板ヘルニア」1個。「腰椎圧迫骨折」1個。「両股OA」1個。「歩行障害」1個。「左下肢麻痺」1個。「四肢不全麻痺」1個。「両下肢ASO」1個。「運動神経障害」1個。「ポリオ」1個。「関節リュウマチ」1個。21種類。
「精神科の診断群」	23個 12.84%	「うつ病」9個。「抑うつ症」2個。「Schizophrenie」2個。「不安神経症」1個。「アルコール依存」2個。「老人性認知症」2個。「認知症」1個。「コルサコフ症候群」1個。「性格変化」1個。「Schwachsinn」1個。「自殺念慮」1個。11種類。
「心身医学の診断群」	10個 5.58%	「頭痛」5個。「心身症」2個。「ヒステリー」2個。「ヒステリー性疼痛」1個。4種類。
「その他の診断群」	42個 23.46%	「糖尿病」6個。「糖尿病性末梢神経障害」1個。「高血圧症」5個。「高脂血症」4個。「神経因性膀胱」2個。Ca（「胃Ca」2個。「腎臓Ca」1個）。潰瘍（「胃潰瘍」1個。「12指腸潰瘍」1個）。ポリープ（「大腸ポリープ」1個。「胆嚢ポリープ」1個）。甲状腺（「甲状腺悪性腫瘍」1個。「甲状腺機能低下」1個）。「橋本病」1個。「左眼球結膜下出血」2個。「両眼白内障」1個。「冠不全」2個。「不整脈」1個。「虚血性心疾患」1個。「心房細動」1個。「ペースメーカー」1個。「B型肝炎」1個。「難聴傾向」1個。「前立腺肥大」1個。「孫の相談」2個。20種類。
5群の合計	179個 99.97%	80種類。

老人患者全体群 n=80に言語連想検査法WAT-IIが実施されたのは、平均して1990.22年 (SD12.02)である。

4) 老人患者全体群 n=80の「診断」の分析結果

(研究4)

老人患者全体群 n=80の「診断」について分析した(表2)。老人患者全体群 n=80の「診断」は、多種多様である。老人患者全体群 n=80の診断は全部で80種類である。

しかも老人患者全体群 n=80の中の53名の老人患者(出現率56.25%)には複数の「診断」がついている。本研究では、先行研究^{22) 23) 24)}を参考に、老人患者全体群 n=80の診断の80種類について、これを5群の診断群に整理した。具体的には「脳外科の診断群」(24種類。78個。出現率43.57%)が一番多い。「整形外科の診断群」(21種類。26個。出現率14.52%)、「精神科の診断群」(11種類。23個。出現率12.84%)、「心身医学の診断群」(4種類。10個。出現率5.58%)、「その他の診断群」(20種類。42個。出現率23.46%)などの5群の診断群(80種類。179個。99.97%)である(表2)。

老人患者全体群 n=80の場合、出現率の高い診断(出現率10.00%以上)は3種類である。「脳梗塞」23個(出現率28.75%)・「左片麻痺」13個(出現率16.25%)・「うつ病」9個(出現率11.25%)。

5) 老人患者全体群 n=80の言語連想検査法

WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分類カテゴリー 32種類の分析結果(研究5)

老人患者に実施した言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の出現数について、32種類の分類カテゴリーで分析した(表3)。

老人患者全体群 n=80の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、出現数の多い分類カテゴリー(出現率10.00%以上)は、6種類の分類カテゴリーである。

出現数の多い分類カテゴリーと出現数は、①

表3 老人患者全体群の〈妻〉という刺激語の連想反応の分類カテゴリーの出現数の分析結果 n=80

分類カテゴリー全32種類	老人患者全体群 n=80	出現率%
出現数の多い分類カテゴリー 6種類(出現率10.00%以上)		
①「反対語反応」	29個	36.25%
②「ポピュラー反応」	27個	33.75%
③「文章型反応」	25個	31.25%
④「聞き返し反応」	14個	17.50%
⑤「検査中止」	13個	16.25%
⑥「定義反応」	10個	12.50%
出現数の少ない分類カテゴリー 9種類(出現率10.00%未満)		
①「類語反応」	7個	8.75%
②「遅延反応」	7個	8.75%
③「プライベート反応」	6個	7.50%
④「関連物反応」	5個	6.25%
⑤「材料反応」	4個	5.00%
⑥「感情反応」	3個	3.75%
⑦「反応不能」	2個	2.50%
⑧「自我滲出反応」	1個	1.25%
⑨「飛躍反応」	1個	1.25%
出現数0個の分類カテゴリー 17種類		
①「有無反応」	0個	0.00%
②「英語反応」	0個	0.00%
③「エコー反応」	0個	0.00%
④「音韻反応」	0個	0.00%
⑤「快不快反応」	0個	0.00%
⑥「聞き誤り反応」	0個	0.00%
⑦「繰り返し反応」	0個	0.00%
⑧「形状反応」	0個	0.00%
⑨「固有名詞反応」	0個	0.00%
⑩「色彩反応」	0個	0.00%
⑪「熟語反応」	0個	0.00%
⑫「衝動反応」	0個	0.00%
⑬「好き嫌い反応」	0個	0.00%
⑭「動詞反応」	0個	0.00%
⑮「におい反応」	0個	0.00%
⑯「二語反応」	0個	0.00%
⑰「保続反応」	0個	0.00%
出現数の合計	154個	192.5%

「反対語反応」29個（出現率36.25%）、②「ポピュラー反応」27個（出現率33.75%）、③「文章型反応」25個（出現率31.25%）、④「聞き返し反応」14個（出現率17.5%）、⑤「検査中止」13個（出現率16.25%）、⑥「定義反応」10個（出現率12.50%）などである（表3）。

2. 「老人患者全体群の男女差」の分析結果 n=80

老人患者全体群 n=80を男性老人患者群と女性老人患者群にわけて男女差について分析した。

1) 「老人患者全体群 n=80の人数」の男女差の分析結果（研究6）

老人患者全体群 n=80の場合、男性老人患者群は人数が n=39（出現率48.75%）、女性老人患者群は人数が n=41（出現率51.25%）である。

老人患者全体群 n=80は、人数の男女差が $CR=0.11$ ($p > 0.05$)²⁵⁾ で5%水準の有意な男女差はない。老人患者全体群 n=80は男女比が1:105である。

病院別に、老人患者全体群 n=80の人数の男女差について分析した。「リハビリ病院」の老人患者群は n=63で、老人患者の男女差は $CR=0.00$ ($p > 0.05$) で、5%水準の有意な男女差はない。「脳外科病院」の老人患者群は n=10で、老人患者の男女差は $CR=0.00$ ($p > 0.05$) で、5%水準の有意な男女差はない。

「精神科病院」の老人患者群は n=7で、女性老人患者が少し多いが、男女差は $CR=1.32$ ($p > 0.05$) で、5%水準の有意な男女差はない。「内科病院」の老人患者群は n=0で、老人患者の男女差は $CR=0.00$ ($p > 0.05$) で、5%水準の有意な男女差はない。

2) 「老人患者全体群の年齢平均」の男女差の分析結果 n=80（研究7）

老人患者全体群 n=80の「年齢平均」について男女差を分析した（表4）。老人患者全体群 n=80の「年齢平均」の男女差は $\chi^2=0.89$ ($p > 0.05$)²⁶⁾ で5%水準の有意な男女差はない。仔細に見ると男性老人患者群 n=39は「年齢平均」が66.92歳 (SD14.84) で若く、女性老人患者群 n=41は「年齢平均」が67.26歳 (SD11.31) で、わずかに高齢である。

老人患者全体群 n=80の「誕生年の平均」について男女差を分析した（表4）。老人患者全体群 n=80の「誕生年の平均」の男女差は $\chi^2=0.04$ ($p > 0.90$) で、5%水準の有意な男女差はない。男性老人患者群 n=39の「誕生年の平均」は大正12 (1923.10) 年 (SD7.77) で、女性老人患者群 n=41も「誕生年の平均」は大正12 (1923.19) 年 (SD2.82) である。

老人患者群 n=80に言語連想検査法WAT-IIが「実施された年」について男女差を調査した（表5）。言語連想検査法WAT-IIが「実施された年」

表4 老人患者全体群の「年齢平均」と「誕生年」の男女差の検定結果 n=80

老人患者全体群 n=80	男性群 n=39	女性群 n=41	男女差	有意水準
「年齢平均」	66.92歳 (SD14.84)	67.26歳 (SD11.31)	$\chi^2=0.89$	$p > 0.50$
「誕生年の平均」	大正12 (1923.10) 年 SD7.77	大正12 (1923.19) 年 SD2.82	$\chi^2=0.04$	$p > 0.90$

表5 老人患者全体群の「言語連想検査法WAT-IIの実施年」の男女差の検定結果 n=80

言語連想検査法WAT-IIの実施	男性群 n=39	女性群 n=41	男女差	有意水準
言語連想検査法WAT-IIの「実施年の平均」	1990.02年実施 SD4.24	1990.41年実施 SD12.72	$\chi^2=0.00$	$p > 0.05$

の男女差は $\chi^2=0.00$ ($p > 0.05$) で、5%水準の有意な男女差はない。言語連想検査法WAT-IIが「実施された年」の平均は、男性老人患者群 $n=39$ が1990.02年で、女性老人患者群 $n=41$ が1990.41年である。

3) 「老人患者全体群群 $n=80$ の診断」について男女差の分析結果 (研究8)

「診断群」(5群)の出現数の男女差について分析した(表6)。老人患者全体群 $n=80$ の場合、「心身医学の診断群」($CR=2.21$)だけが5%水準の有意な男女差がある($p < 0.05$)。

「心身医学の診断群」の出現数は、女性老人患者群が多く9個で、男性老人患者群は少なく1個である。このほかの4種類の「診断群」の出現数につい

ては、有意な男女差がない($p > 0.05$) (表6)。

「出現数の多い診断」(出現数5個以上)の男女差について分析した(表7)。「出現数の多い診断」(出現数5個以上)で有意な男女差があるのは、「左片麻痺」の診断($CR=1.94$ $p < 0.05$)と「頭痛」の診断($CR=1.79$ $p < 0.05$)の2種類である(表7)。

「左片麻痺」の診断の出現数は女性老人患者群が多く10個で、男性老人患者群は少なく3個である(表7)。「頭痛」の診断の出現数も女性老人患者群が多く5個で、男性老人患者群は少なく0個である(表7)。「出現数の多い診断」(出現数5個以上)で、5%水準の有意な男女差がない診断は、①「脳梗塞」・②「右片麻痺」・③「うつ病」・④「認知症」など4種類($p > 0.05$)である(表6)。

表6 老人患者全体群の「診断群の出現数」について男女差の検定結果 $n=80$

診断群の出現数	男性老人患者 $n=39$	女性老人患者 $n=41$	男女差の検定	有意水準
「心身医学の診断群」の出現数	1個	9個	$CR=2.21$	$p < 0.05$
「整形外科の診断群」の出現数	16個	10個	$CR=0.98$	$p > 0.05$
「精神科の診断群」の出現数	14個	9個	$CR=0.83$	$p > 0.05$
「脳外科の診断群」の出現数	35個	43個	$CR=0.79$	$p > 0.05$
「その他の診断群」の出現数	20個	22個	$CR=0.15$	$p > 0.05$
「5群の診断群」の出現数の合計	86個	93個	$CR=0.44$	$p > 0.05$

表7 老人患者全体群の「出現数の多い診断」(5個以上)の男女差の検定結果 $n=80$

出現数の多い診断 (5個以上) 7種類	男性老人患者群 $n=39$	女性老人患者群 $n=41$	男女差の検定	有意水準
有意な男女差がある診断				
①「左片麻痺」	「左片麻痺」3個	「左片麻痺」10個	$CR=1.94$	$p < 0.05$
②「頭痛」	「頭痛」0個	「頭痛」5個	$CR=1.79$	$p < 0.05$
有意な男女差がない診断				
①「脳梗塞」	「脳梗塞」13個	「脳梗塞」18個	$CR=0.71$	$p > 0.05$
②「右片麻痺」	「右片麻痺」3個	「右片麻痺」5個	$CR=0.35$	$p > 0.05$
③「うつ病」	「うつ病」6個	「うつ病」5個	$CR=0.00$	$p > 0.05$
④「認知症」	「認知症」6個	「認知症」5個	$CR=0.00$	$p > 0.05$

注：「脳梗塞」13個の内訳（「脳梗塞」9個・「脳血栓」2個・「多発性脳梗塞」2個）。「脳梗塞」18個の内訳（「脳梗塞」14個・「脳血栓」4個）。「うつ病」6個の内訳（「うつ病」4個・「抑うつ症」2個）。「認知症」6個の内訳（「脳動脈硬化症」4個・「認知症」2個）。「認知症」5個の内訳（「コルサコフ症候群」1個・「老人性認知症」2個・「脳血管認知症」1個・「脳動脈硬化症」1個）。

表8 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の「分類カテゴリー」32種類の出現数について男女差の検定結果 n=80

分類カテゴリー	男性群 n=39	女性群 n=41	男女差の検定	有意水準	男女老人患者 合計 n=80
出現数の多い分類カテゴリー (出現率10.00%以上) 6種類					
①「反対語反応」	17個	12個	CR=0.74	p > 0.05	29個
②「ポピュラー反応」	18個	9個	CR=1.48	p > 0.05	27個
③「文章型反応」	11個	14個	CR=0.60	p > 0.05	25個
④「聞き返し反応」	4個	10個	CR=1.33	p > 0.05	14個
⑤「検査中止」	4個	9個	CR=1.11	p > 0.05	13個
⑥「定義反応」	5個	5個	CR=0.00	p > 0.05	10個
出現数の少ない分類カテゴリー (出現率10.00%未満) 9種類					
①「遅延反応」	0個	7個	CR=2.65	p < 0.01	7個
②「類語反応」	5個	2個	CR=0.75	p > 0.05	7個
③「プライベート反応」	3個	3個	CR=0.00	p > 0.05	6個
④「関連物反応」	1個	4個	CR=0.89	p > 0.05	5個
⑤「材料反応」	2個	2個	CR=0.00	p > 0.05	4個
⑥「感情反応」	0個	3個	CR=1.15	p > 0.05	3個
⑦「反応不能」	1個	1個	CR=0.00	p > 0.05	2個
⑧「自我滲出反応」	0個	1個	CR=0.00	p > 0.05	1個
⑨「飛躍反応」	0個	1個	CR=0.00	p > 0.05	1個
出現数0個の分類カテゴリー 17種類					
①「有無反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
②「英語反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
③「エコー反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
④「音韻反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑤「快不快反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑥「聞き誤り反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑦「繰り返し反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑧「形状反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑨「固有名詞反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑩「色彩反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑪「熟語反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑫「衝動反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑬「好き嫌い反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑭「動詞反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑮「におい反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑯「二語反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
⑰「保続反応」	0個	0個	CR=0.00	p > 0.05	0個
合計154個	71個	83個	CR=0.73	p > 0.05	154個

4) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の「分類カテゴリー」について男女差の検定結果 n=80 (研究9)

老人患者全体群 n=80の言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について、32種類の「分類カテゴリー」の出現数の男女差について分析した(表8)。

老人患者全体群 n=80で連想反応の「分類カテゴリー」32種類の中で有意な男女差があるのは、「遅延反応」の1種類だけである。ほかの31種類の連想反応の「分類カテゴリー」の出現数については、老人患者全体群 n=80の言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で5%水準の有意な男女差がない($p > 0.05$)。

老人患者全体群 n=80で言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「遅延反応」の出現数の男女差はCR=2.65で、有意水準1%の男女差である($p < 0.01$)。女性老人患者群の場合には、言語連想検査法WAT-IIで〈妻〉という刺激語の連想反応をすぐに答えることが難しい人が多い(7人 出現率17.03%)。男性老人患者群の場合、言語連想検査法WAT-IIで〈妻〉という刺激語の連想反応をすぐに答えることが難しい人はいないことが大きな男

女差である(出現数0人)。

3. 老人患者全体群の「年号別の男女差の検定結果」 n=80

老人患者全体群 n=80を明治群・大正群・昭和群など年号別にわけて分析した。

1) 老人患者全体群の人数の「年号別の男女差の検定結果」 n=80 (研究10)

老人患者全体群 n=80の年号別の人数について調査した(表9)。老人患者全体群 n=80の生まれた年号の人数は、「明治生まれ」の老人患者群が n=13(出現率16.25%)で一番少ない。

「大正生まれ」の老人患者群は n=34(出現率42.5%)である。「昭和生まれ」の老人患者群は n=33(出現率41.25%)である。

「老人患者の人数の男女差」について、年号別に分析した。「明治生まれ」群の男女 n=13の男女差はCR=0.00で5%水準の有意な男女差はない($p > 0.05$)。「大正生まれ」群の男女 n=34の男女差はCR=0.17で5%水準の有意な男女差はない($p > 0.05$)。「昭和生まれ」群の男女 n=33の男女差はCR=0.00で5%水準の有意な男女差がない($p > 0.05$)。

表9 老人患者群の「年号別の人数」の男女差の検定結果 n=80

老人患者の生まれた年号	出現率	男性群	女性群	男女差の検定
「明治生まれ」の老人患者群 n=13	16.25%	n=6	n=7	CR=0.00, $p > 0.05$
「大正生まれ」の老人患者群 n=34	42.50%	n=16	n=18	CR=0.17, $p > 0.05$
「昭和生まれ」の老人患者群 n=33	41.25%	n=17	n=16	CR=0.00, $p > 0.05$

表10 「老人患者群の年齢平均について」年号別の男女差の検定結果 n=80

老人患者の生まれた年号	年号の期間	男性群の「年齢平均」	女性群の「年齢平均」	男女差	有意水準
「明治生まれ」群 n=13	1868.9.6. ~ 1912.7.30.	77.00歳 (SD3.53)	74.85歳 (SD4.94)	$\chi^2=0.63$	$p > 0.50$
「大正生まれ」群 n=34	1912.7.30. ~ 1926.12.25.	66.12歳 (SD1.41)	65.55歳 (SD4.94)	$\chi^2=0.10$	$p > 0.80$
「昭和生まれ」群 n=33	1926.12.25. ~ 1989.1.7.	64.11歳 (SD2.82)	65.87歳 (SD2.12)	$\chi^2=0.37$	$p > 0.70$

2) 老人患者群の「年齢平均の年号別の男女差」の検定結果 n=80 (研究11)

老人患者群 n=80の「年齢平均」について、年号別に調査した(表10)。明治生まれの老人患者群 n=13は、「年齢平均」が75.84歳 (SD9.89) である。

大正生まれの老人患者群 n=34は、「年齢平均」が65.82歳 (SD2.82) である。昭和生まれの老人患者群 n=33は、「年齢平均」が64.96歳 (SD2.12) である。老人患者全体群 n=80の「年齢平均」の男女差について、年号別に調査した。

明治生まれの老人患者群 n=13は、「年齢平均」の男女差は $\chi^2=0.63$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.50)。大正生まれの老人患者群 n=34は、「年齢平均」の男女差は $\chi^2=0.10$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.80)。昭和生まれの老人患者群 n=33の「年齢平均」の男女差は、 $\chi^2=0.37$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.70)。

老人患者群 n=80の「生まれた年」の平均について、年号別に調査した。明治生まれの老人患者群 n=13の「生まれた年の平均」は明治40 (平均1907.84) 年 (SD7.07) である。明治生まれの老人患者群 n=13の「生まれた年」の男女差は $\chi^2=1.93$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.20)。

大正生まれの老人患者群 n=34の「生まれた年の平均」は大正9 (平均1920.08年) (SD9.19) である。大正生まれの老人患者群 n=34の「生まれた

年」の男女差は $\chi^2=0.06$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.90)。昭和生まれの老人患者群 n=33の「生まれた年の平均」は昭和7 (平均1932.33年) (SD9.19) である。昭和生まれの老人患者群 n=33の「生まれた年」の男女差は $\chi^2=0.03$ で5%水準の有意な男女差はない (p > 0.90)。

3) 「老人患者群で出現率の高い診断群 (出現率20%以上)」について、男女差の検定結果 n=80 (研究12)

老人患者群 n=80で出現率の高い「診断群」(出現率20%以上) について、年号別に調査した。老人患者群 n=80で出現率の高い「診断群」(出現率20%以上) については、明治生まれの老人患者群 n=13の場合、脳外科の「診断群」の患者の10名 (出現率76.92%) と整形外科の「診断群」の患者の3名 (出現率23.07%) である。

大正生まれの老人患者群 n=34の場合、出現率の高い「診断群」(出現率20%以上) は、脳外科の「診断群」の患者が22名 (出現率64.70%) である。

昭和生まれの老人患者群 n=33の場合、出現率の高い「診断群」(出現率20%以上) は、脳外科の「診断群」の患者の17名 (出現率51.51%) と整形外科の「診断群」の患者の7名 (出現率21.21%) である。

表11 「老人患者群で出現率の高い診断群 (出現率20%以上)」の年号別の分析結果 n=80

老人患者の生まれた年号	脳外科の「診断群」	整形外科の「診断群」	精神科の「診断群」	心身医学の「診断群」	その他の「診断群」	5科合計
明治生まれの老人患者群 n=13	10名 出現率76.92%	3名 出現率23.07%	2名 出現率15.38%	0名 出現率 0.00%	0名 出現率 0.00%	n=15 出現率115.38%
大正生まれの老人患者群 n=34	22名 出現率64.70%	6名 出現率17.64%	1名 出現率 2.94%	2名 出現率 5.88%	3名 出現率 8.82%	n=37 出現率108.82%
昭和生まれの老人患者群 n=33	17名 出現率51.51%	7名 出現率21.21%	2名 出現率 6.06%	6名 出現率15.15%	6名 出現率18.18%	n=38 出現率115.15%

4) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の出現数の年号別の男女差の検定結果

n=80 (研究13)

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について、反応開始時間と連想反応の「内容」を年号別に整理して男女差を考察した。

i 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について「男性老人患者群」の年号別の分析結果 n=39

「明治生まれ」の男性老人患者群 n=6 の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が3.49秒でやや遅いことである。反応開始時間の遅れからは、妻にこだわりがあることが示唆される。「明治生まれ」の男性老人患者群 n=6 の場合は、②妻に感謝の気持ちをもっている連想反応が出現した。「明治生まれ」の男性老人患者群 n=6 の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、③「ポピュラー反応」が全く出現していないことが特徴である（出現数0個 出現率0.00%）。

「大正生まれ」の男性老人患者群 n=16の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の

連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が速く1.53秒で、妻に何のこだわりも持っていないことが示唆されたことである。「大正生まれ」の男性老人患者群 n=16の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、②妻に感謝の気持ちが見られる連想反応は出ていない。「大正生まれ」の男性老人患者群 n=16は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、③「ポピュラー反応」が多く出ている（出現数9個 出現率56.25%）。「大正生まれ」の男性老人患者群 n=16は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、④クールな内容の連想反応（つまり「夫」という連想反応）が多いことが特徴である。

「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が3.46秒でやや遅く、妻に対してこだわりがあることが示唆されることである。「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、②妻に感謝の気持ちを述べている連想反応は出ていない（出現数0個 出現率0.00%）。「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という

表12 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について「男性老人患者群」の年号別の分析結果 n=39

<p>「明治生まれ」の男性老人患者群 n=6 の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均3.49秒）と「内容」は、①2秒「自分の家内」。②8秒「家内ですか」。③2秒「え。妻くらいありがたいものはないと思います」。④3秒「子孫を耕し。精一杯、子孫のために」。⑤2秒「できることは手伝う」。⑥〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>
<p>「大正生まれ」の男性老人患者群 n=16の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均1.53秒）と「内容」は、①1秒「夫」。②1秒「夫」。③1秒「夫」。④1秒「夫」。⑤1秒「夫」。⑥2秒「夫」。⑦1秒「妻、夫。」。⑧1秒「妻、夫」。⑨3秒「妻といえば、夫だろうね」。⑩1秒「女」。⑪1秒「女房」。⑫2秒「家内」。⑬2秒「自分の連れ添い」。⑭2秒「妻をもつこと」。⑮3秒「は、妻と聞いて思いつくのは私は今、独身だから。長男坊4つつさ」。⑯〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>
<p>「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均3.46秒）と「内容」は、①2秒「夫」。②2秒「夫」。③2秒「夫」。④2秒「夫」。⑤5秒「夫」。⑥4秒「夫」。⑦1秒「夫、でないですか」。⑧1秒「妻、夫」。⑨1秒「妻、夫」。⑩5秒「妻、夫に従うこと」。⑪8秒「女」。⑫6秒「女房」。⑬4秒「配偶者」。⑭3秒「こども」。⑮6秒「わからないです」。⑯〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑰〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>

刺激語の連想反応で、③「ポピュラー反応」が多い（出現数9個 出現率52.94%）。つまり「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の半数の男性老人患者は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語に対して④クールな連想反応（つまり「夫」という連想反応）を答えることで、妻にこだわりがあることをうまく処理していることが示唆された。「昭和生まれ」の男性老人患者群 n=17の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語に⑤「妻、夫に従うこと」という指摘の連想反応がみられる。「昭和生まれ」になると「夫に従わない妻」が出てくることが示唆された。

ii 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について「女性老人患者群」 n=41の年号別の分析結果

「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が7.00秒で遅いことである。「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7は、②言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で即答できない女性が多い。つまり「明

治生まれ」の女性老人患者群 n=7は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、③妻についてこだわりが大きいことが示唆された。「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、④「ポピュラー反応」が少ない（出現数1個 出現率14.28%）。つまり「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応が、患者によって多様であるということである。例えば「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7には、⑤「妻は女性である」という自己意識をもっていることを述べている連想反応が出現した。「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7には、⑥「一家の大事な人」というように妻の役割を述べる連想反応も出現した。「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7には、⑦「いくじなしだね」というように自己抑制的な性格を述べる女性老人患者も出現した。

「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が3.25秒

表13 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について「女性老人患者群」の年号別の分析結果 n=41

<p>「明治生まれ」の女性老人患者群 n=7の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均7.00秒）と「内容」は、①1秒「夫」。②2秒「おなご」。③20秒「妻は、さて何ていうんでしょうね。妻は。んー、妻は女」。④10秒「一家の大事な人だと思います」。⑤2秒「妻。10秒 そうだね。いくじなしだね」。⑥〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑦〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>
<p>「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均3.25秒）と「内容」は、①1秒「夫」。②1秒「夫」。③1秒「夫ですね」。④2秒「妻、んー妻ったら。8秒 夫に、夫だよね」。⑤10秒「妻、夫」。⑥4秒「夫からみるわけだね、そうすると」。⑦1秒「亭主」。⑧9秒「主人」。⑨5秒「わたし」反応。⑩2秒「妻、子ども」。⑪2秒「妻、子ども育てるですね」。⑫1秒「雑誌」。⑬〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑭〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑮〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑯〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑰〈妻〉の刺激語は「検査中止」。⑱〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>
<p>「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想した連想反応の反応開始時間（平均4.73秒）と「内容」は、①1秒「むつかしい」。②1秒「んん。妻ね、むつかしい」。③2秒「妻、4秒ああむつかしい」。④9秒「えー。どういうにいったらいいかな」。⑤1秒「夫」。⑥4秒「夫」。⑦2秒「妻は、夫」。⑧11秒「夫、こども」。⑨3秒「妻は。家内とかでいいんですか」。⑩11秒「家事」。⑪3秒「家庭」。⑫6秒「世の中のこと。家庭主婦かなんか」。⑬5秒「んー。大事な人」。⑭10秒「大事な人」。⑮1秒「んん。妻、妻、悪妻やね」。⑯〈妻〉の刺激語は「検査中止」などである。</p>

で少し遅いことである。つまり「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18の場合も、②妻に何かこだわりがあることが示唆された。「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、③「ポピュラー反応」が多い（出現数5個 出現率27.77%）。つまり「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18の場合、出現率27.77%の女性老人患者は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語についてのこだわりをもっているも「ポピュラー反応」をこたえることによって、妻についてのこだわりをうまく処理していることが示唆された。

「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18の場合、④「検査中止」も多い（出現数6個 出現率33.33%）。「検査中止」が多いことは、⑤「大正生まれ」の女性老人患者群 n=18には具合の悪い女性老人患者が多いこと（出現数5名 出現率27.77%）を示唆している。

「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の特徴は、①反応開始時間の平均が4.73秒で遅いことである。「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合も妻に何か大きなこだわりをもっている女性老人患者がいることが示唆される。具体的には「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合、②「どういうにいったらいいかな」ということで妻について戸惑いがあることを述べている連想反応が多い（出現数4個 出現率25.00%）。

「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で「ポピュラー反応」の出現数が少ない（3個 出現率18.75%）。「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16も連想反応が、患者によっていろいろ多様である。例えば「昭和生まれ」の女性老人患者群の場合は、④妻は「大事な人」という自己意識をもっていることを述べている女性がいる。

「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合も、〈妻〉という刺激語の連想反応で、⑤「夫に従うこと」ということに言及している女性老人は誰もいない。しかし「昭和生まれ」の女性老人患者群 n=16の場合には、自分のことを「妻、悪妻やね」と言う風に述べている女性老人も出現していることが特徴である。

iii 「老人患者群」 n=80の言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について年号別の検定結果

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について、心理分析をした。

「明治生まれ」の老人患者群 n=13は、①男性老人患者（反応開始時間平均3.49秒）の世界と女性老人患者（反応開始時間平均7.00秒）の世界がきちんと住み分けられていることが示唆された（表14）。

「明治生まれ」の老人患者群 n=13の場合、②「夫婦の軋轢は目立たない」ことが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応から解釈された。「明治生まれ」の老人患者群 n=13には、

表14 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について「反応開始時間」の男女差の検定結果 n=80

老人患者の生まれた年号	男性群の「反応開始時間」平均	女性群の「反応開始時間」平均	「反応開始時間」の男女差	有意水準
明治生まれの老人患者群 n=13	3.49秒	7.00秒	$\chi^2=0.00$	p > 0.99
大正生まれの老人患者群 n=34	1.53秒	3.25秒	$\chi^2=3.52$	p < 0.10
昭和生まれの老人患者群 n=33	3.46秒	4.73秒	$\chi^2=0.00$	p > 0.99
合計 n=80	2.62秒	4.53秒	$\chi^2=3.30$	p < 0.10

表15 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分類カテゴリーの出現数について年号別の男女差の分析結果 n=80

連想反応の分類カテゴリー	明治生まれの男性老人患者群 n=6	大正生まれの男性老人患者群 n=16	昭和生まれの男性老人患者群 n=17	男性老人患者の合計 n=39	明治生まれの女性老人患者群 n=7	大正生まれの女性老人患者群 n=18	昭和生まれの女性老人患者群 n=16	女性老人患者の合計 n=41
出現数の多い分類カテゴリー (出現率10.00%以上) 6種類								
①「反対語反応」	0個	9個	8個	17個	0個	8個	4個	12個
②「ポピュラー反応」	0個	9個	9個	18個	1個	5個	3個	9個
③「文章型反応」	5個	4個	2個	11個	3個	4個	7個	14個
④「聞き返し反応」	0個	2個	2個	4個	1個	4個	5個	10個
⑤「検査中止」	1個	1個	2個	4個	2個	6個	1個	9個
⑥「定義反応」	2個	2個	1個	5個	2個	1個	2個	5個
出現数の少ない分類カテゴリー (出現率10.00%未満) 9種類								
①「遅延反応」	0個	0個	0個	0個	3個	1個	3個	7個
②「類語反応」	1個	2個	2個	5個	0個	0個	2個	2個
③「プライベート反応」	2個	1個	0個	3個	1個	0個	2個	3個
④「関連物反応」	0個	0個	1個	1個	0個	1個	3個	4個
⑤「材料反応」	0個	1個	1個	2個	2個	0個	0個	2個
⑥「感情反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	3個	3個
⑦「反応不能」	0個	0個	1個	1個	0個	0個	1個	1個
⑧「自我滲出反応」	0個	0個	0個	0個	0個	1個	0個	1個
⑨「飛躍反応」	0個	0個	0個	0個	0個	1個	0個	1個
出現数0個の分類カテゴリー 17種類								
①「有無反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
②「英語反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
③「エコー反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
④「音韻反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑤「快不快反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑥「聞き誤り反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑦「繰り返し反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑧「形状反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑨「固有名詞反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑩「色彩反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑪「熟語反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑫「衝動反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑬「好き嫌い反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑭「動詞反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑮「にょい反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑯「二語反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
⑰「保続反応」	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個	0個
合計154個	11個	31個	29個	71個	15個	32個	36個	83個

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、③「妻に感謝の気持ちをもっている」ことを述べている男性老人患者の連想反応が出現した。

「妻は女だという自己意識を有している」ことを述べている女性老人患者の連想反応も出現した。

「明治生まれ」の老人患者の夫婦関係は、⑤「夫唱婦随が暗黙のルールだった」ようであることが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の心理分析から示唆された。⑥したがって「夫に逆らうことを抑制した生活を送ってきた」ので、「いくじなしだねという自己抑制的な性格を延べる」女性老人患者が出現するのであろうと考察される。

「大正生まれ」の老人患者群 $n=34$ の場合は、①男性老人患者群 $n=16$ は反応が早く（反応開始時間平均1.53秒）、女性老人患者群 $n=18$ は反応が遅く（反応開始時間平均3.25秒）、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の反応開始時間について、10%水準の有意な男女差がある（ $\chi^2=3.52$ $p<0.10$ ）。

「大正生まれ」の男性老人患者群 $n=16$ になると、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応で、「妻に感謝の気持ちがある」ことを述べる男性老人患者がいない。「大正生まれ」の男性老人患者群 $n=16$ の場合は、③「妻について、何も思わなくなっている」ことが言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分析で考察される。

「大正生まれ」の老人患者群 $n=34$ の場合は、「明治生まれ」の老人患者群 $n=13$ に比べると、⑤「夫婦の心理的な関係が淡白」になったことが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分析で考察される。

「大正生まれ」の老人患者群 $n=34$ の場合は、⑥「大正生まれ」の男性が無神経になった分だけ「大正生まれ」の女の人が苦勞して、⑦「大正生ま

れ」の女性老人患者群には具合の悪い人が多くなったのかもしれないということが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分析で考察される。

「昭和生まれ」の老人患者群 $n=33$ は、①「夫婦の関係がもっと厳しく」なってきて、②「この家の天下を取っているのは誰なのか」ということで、男性老人患者群（反応開始時間平均3.46秒）と女性老人患者群（反応開始時間平均4.73秒）の間に戦いが発生してきたことが考察される。

「昭和生まれ」の男性老人患者群 $n=17$ の場合は、③旧態の「夫唱婦随という夫婦関係」が危うくなって危機意識を持ち始めた「昭和生まれ」の男性がいることが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応の分析で考察される。

「昭和生まれ」の女性老人患者群 $n=16$ の中でも、④新しく生じた「婦唱夫随の夫婦関係」で立ち位置が逆転して、妙な違和感を抱くようになった女性がいることが、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応を分析することで考察された。

5) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「ポピュラー反応」の出現数について男女差の分析結果 $n=80$ (研究14)

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、「ポピュラー反応」の出現数の男女差について年号別に調査した（表16）。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の場合、「夫」という連想反応は、出現率が10%以上なので患者の人格水準を判定するためのA分析法³⁾では、「ポピュラー反応」^{4) 9)}という反応分類カテゴリーに分析される。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「夫」という連想反応は、患者の自我防衛レベルを分析するためのB分析法⁷⁾では、「完全防衛レベル」の連想反応と分析される。

表16 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「ポピュラー反応」の出現数について年号別の男女差の検定結果 n=80

老人患者の生まれた年号	「ポピュラー反応」の出現数	男性群の「ポピュラー反応」の出現数	女性群の「ポピュラー反応」の出現数	「ポピュラー反応」の出現数の男女差の有意水準
「明治」の老人患者群 n=13	1個	0個 (出現率0%)	1個 (出現率14.28%)	CR=0.00, p > 0.05
「大正」の老人患者群 n=34	14個	9個 (出現率56.25%)	5個 (出現率31.25%)	CR=0.80, p > 0.05
「昭和」の老人患者群 n=33	12個	9個 (出現率52.94%)	3個 (出現率18.75%)	CR=1.44, p > 0.05
老人患者全体群 n=80の「ポピュラー反応」の出現数 (出現率)	27個	18個 (出現率46.15%)	9個 (出現率21.95%)	CR=1.54, p > 0.05

患者を診断するためのC分析法⁵⁾では、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「夫」という連想反応は、〈妻〉という刺激語の「反対語反応」と分析される。「反対語反応」²⁷⁾は、患者の自我が外部に露出することを防止している適切な反応であるが、これが極端になると共感性欠如のサインとなってくと解説されている。「反対語反応」は患者の自我の防衛がクールに完璧に行われていることを示している。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「ポピュラー反応」の出現数は、明治群・大正群・昭和群などいずれの年号群も、5%水準の有意な男女差はない(p > 0.05)。女性老人患者群 n=41の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で「ポピュラー反応」の出現数が少ないので、スムーズに答えることができない女性が多いことが検証された。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「ポピュラー反応」の出現数の男女合計は、「明治」生まれの老人患者群 n=13の場合は1個(出現率7.69%)で少ない。「明治」生まれの老人患者群 n=13の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応が多様になっていることが検証された。

「大正」生まれの老人患者群 n=34の場合は、「ポピュラー反応」の出現数の男女合計が14個(出現率41.17%)で多い、「昭和」生まれの老人患者群 n=33の場合も「ポピュラー反応」の出現数の男女合計は、12個(出現率36.36%)で多いことが検証された。

6) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「遅延反応」の出現数の年号別の男女差の分析結果 n=80 (研究15)

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語

表17 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「遅延反応」の出現数について年号別の男女差の検定結果 n=80

老人患者の生まれた年号	「遅延反応」の出現数	男性群 n=39の「遅延反応」の出現数	女性群 n=41の「遅延反応」の出現数	「遅延反応」の男女差の有意水準
「明治」の老人患者群 n=13	3個	0個 (出現率0.00%)	3個	CR=1.15, p > 0.05
「大正」の老人患者群 n=34	1個	0個 (出現率0.00%)	1個	CR=0.00, p > 0.05
「昭和」の老人患者群 n=33	3個	0個 (出現率0.00%)	3個	CR=1.15, p > 0.05
「遅延反応」の出現数 (出現率)	7個	0個 (出現率0.00%)	7個 (出現率17.03%)	CR=2.27, p < 0.05

表18 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「反応不能」の出現数について年号別の男女差の分析結果 n=80

老人患者全体群 n=80	「反応不能」の出現数	男性群 n=39の「反応不能」の出現数	女性群 n=41の「反応不能」の出現数	「反応不能」の男女差の有意水準
「明治」老人患者群 n=13	0個	0個 (出現率0.00%)	0個 (出現率0.00%)	CR=0.00, p >0.05
「大正」老人患者群 n=34	0個	0個 (出現率0.00%)	0個 (出現率0.00%)	CR=0.00, p >0.05
「昭和」老人患者群 n=33	2個	1個 (出現率5.88%)	1個 (出現率6.25%)	CR=0.70, p >0.05
〈妻〉の刺激語の「反応不能」の出現数の合計 (出現率)	2個	1個 (出現率2.56%)	1個 (出現率2.43%)	CR=0.70, p >0.05

で、「遅延反応」の出現数の男女差について年号別に調査した(表17)。

反応時間が遅い連想反応(10秒以上)は、患者の診断的特徴を考察するためのC分析法⁵⁾では、「遅延反応」という反応分類カテゴリーになる。患者の自我防衛レベルを分析するためのB分析法⁷⁾では、「遅延反応」は「不完全防衛レベル」か「防衛以前のレベル」と分析される。

患者の人格水準を判定するためのA分析法³⁾では、「遅延反応」は「病的反応」の分類カテゴリーに分析される。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「遅延反応」の出現数は、男性老人患者群 n=39の場合は、明治群・大正群・昭和群など三つの年号群のすべてで0個である(出現率0.00%)。男性老人患者群 n=39の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で連想反応を答えることが難しいことではないことが検証された。

女性老人患者群 n=41の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、「遅延反応」の出現数が多く7個(出現率17.03%)で、5%水準の有意な男女差がある(CR=2.27 p <0.05)。

女性老人患者群 n=41では、明治群・大正群・昭和群などすべての年号群で、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、反応が遅い女性患者が出ている。

女性老人患者群にとって、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語は答えにくい刺激語であることが検証された。

7) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「反応不能」の出現数の年号別の男女差の検定結果 n=80 (研究16)

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で、「反応不能」の出現数の男女差について、年号別に調査した(表18)。言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で「反応不能」の出現数はとて

表19 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「検査中止」の出現数について年号別の男女差の分析結果 n=80

老人患者群全体群 n=80	「検査中止」の出現数	男性群 n=39の「検査中止」の出現数	女性群 n=41の「検査中止」の出現数	「検査中止」の男女差の有意水準
「明治」生まれの老人患者群 n=13	3個	1個 (出現率16.66%)	2個 (出現率28.57%)	CR=0.00, p >0.05
「大正」生まれの老人患者群 n=34	7個	1個 (出現率6.25%)	6個 (出現率33.33%)	CR=1.51, p >0.05
「昭和」生まれの老人患者群 n=33	3個	2個 (出現率11.76%)	1個 (出現率6.25%)	CR=0.00, p >0.05
〈妻〉の刺激語の「検査中止」の出現数の合計 (出現率)	13個	4個 (出現率10.25%)	9個 (出現率21.95%)	CR=1.11, p >0.05

も少なく、明治群・大正群・昭和群など老人患者群のすべてにおいて5%水準の有意な男女差がない ($p > 0.05$)。

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で「反応不能」の患者は、「昭和」生まれの老人患者群 $n=33$ にだけ出現している。「昭和」生まれの老人患者 $n=33$ には、男女群いずれの患者も〈妻〉について、何か大きなこだわりがある人がいることが検証された。

8) 言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「検査中止」の出現数の年号別の男女差の検定結果 $n=80$ (研究17)

言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の「検査中止」の出現数の男女差について、年号別に調査した (表19)。

「検査中止」ということの臨床心理学的な意味は、患者の具合がかなり悪いということである。「大正」生まれの老人患者群 $n=34$ は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語で「検査中止」の出現数は7個で、女性老人患者群が6個で多く、男性老人患者群が1個で少ない。

「大正」生まれの老人患者群 $n=34$ の場合は、5%水準の有意な男女差はない ($p > 0.05$) が、女性老人患者群の中には具合の悪い患者が多いことが検証された ($CR=1.51$)。

老人患者群全体 $n=80$ の場合、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語「検査中止」の出現数は13個 (出現率16.25%) で少なく、明治群・大正群・昭和群など老人患者の「生まれた年」の年号群のすべてにおいて5%水準の有意な男女差はないことが検証された ($p > 0.05$)。

引用文献

- 1) 小林俊雄 (2000) 「老人の心がわかる」78頁『よくわかる心理学講義』関西看護出版。
- 2) 小林俊雄 (1989 a) 言語連想検査WAT-II検査用紙 (全1頁), 誠信書房。
- 3) 小林俊雄 (1989 b) 「A分析法と人格水準の判定」21頁-25頁『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』

IV 分析結果の結論

本研究の目的は、言語連想検査法WAT-IIを施行した老人患者の〈妻〉イメージの男女差について、明治・大正・昭和の視点から32種類の反応分類カテゴリーにもとづいて、臨床心理学的な調査研究を行うことである。

病院の臨床心理業務を通じて蓄積してきた老人患者の言語連想検査法WAT-IIの臨床心理記録にもとづいて、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語の連想反応について分析した。分析結果の結論として4項目を上げることができる。

- 1 老人患者の「生まれた年」の年号群別に夫婦関係を要約すると、明治群は住み分けの夫婦関係、妻を敬愛している男性もみられることが検証された。大正群は男性老人患者は淡泊でクールな夫婦関係であることが検証された。大正群の女性老人患者群には具合の悪い人が多いことが検証された。昭和群になると男女の主導権争いがめだつような夫婦関係になってくることが検証された。
- 2 「昭和」生まれの老人患者になると、〈妻〉についてこだわりのある人が、男女群いずれにも出てくることが検証された。
- 3 女性老人患者群 $n=41$ の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語は答えにくい刺激語であることが検証された。
- 4 男性老人患者群 $n=39$ の場合は、言語連想検査法WAT-IIの〈妻〉という刺激語は答えにくい刺激語ではないことが検証された。〈妻〉ということでは何も考えていない男性老人患者が多いことが検証された。

誠信書房.

- 4) 小林俊雄 (1989b) 「ポピュラー反応」 21頁-23頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 5) 小林俊雄 (1989b) 「C分析法と診断的特徴」 28頁-41頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 6) 小林俊雄 (1989b) 「検査トラブルと対策」 11頁-12頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 7) 小林俊雄 (1989b) 「B分析法と自我防衛」 26頁-27頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 8) 小林俊雄 (1989c) 『言語連想検査WAT-II分析記録用紙』 (全4頁), 誠信書房.
- 9) 小林俊雄 (1989b) 「分析記録用紙による解釈法」 89頁-94頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 10) 小林俊雄 (1989b) 「心理療法のための解釈法」 95頁-99頁 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.
- 11) 小林俊雄 (1995) 『子どもの心が分かる—心理カウンセラーのノートから』 家政教育社.
- 12) 小林俊雄 (2004) 『臨床心理アセスメントの実際—カウンセリングと連想テスト』 関西看護出版.
- 13) 小林俊雄 (2006a) 「連想テストにおける老人の自己イメージの男女差」 45頁-46頁, 『岡山心理学会第54回大会研究発表論文集』.
- 14) 小林俊雄 (2007) 「連想テストによる自己イメージの臨床心理アセスメントに見られる老人の男女差」 147頁-152頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第4号.
- 15) 小林俊雄 (2006b) 「連想テストの刺激語〈セックス〉と老人患者の男女差」 61頁-73頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第3号.
- 16) 小林俊雄 (2009a) 「満60歳病院患者の発病の月日時と発病日の星座についての男女差—発病の予防研究」 17頁-18頁, 『岡山心理学会第57回大会発表論文集』.
- 17) 小林俊雄 (2009b) 「60歳病院患者の発病の月日と星座について男女差の研究」, 『2009年岡山心理学会第57回大会ポスター発表 2009.12.12』.
- 18) 小林俊雄 (2015a) 「満60歳の患者の発病時のストレス得点について男女差—発病予防の研究」 32頁-59頁, 『吉備国際大学心理・発達総合研究センター紀要』 第1号.
- 19) 小林俊雄 (2014a) 「満60歳病院患者の夫婦関係について男女差の研究」 15頁-27頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第11号.
- 20) 小林俊雄 (2010a) 「満60歳病院患者の診断と誕生日, 誕生月, 誕生日, 星座について男女差の研究」 55頁-65頁, 『吉備国際大学紀要 (社福)』 第20号.
- 21) 小林俊雄 (2010b) 「満60歳病院患者の入院時状況について男女差の研究」 27頁-36頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第7号.
- 22) 小林俊雄 (2013) 言語連想検査法の患者117名の2群と4群の疾患群 $n=117$ 3頁, 「言語連想検査法WAT-IIの患者117名の遅延反応と反応不能の分析」 1頁-13頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第10号.
- 23) 小林俊雄 (2014b) 言語連想検査法の患者117名の診断の調査結果 $n=117$ 5頁, 「言語連想検査法WAT-IIの患者117名のポピュラー反応の分析」 1頁-14頁, 『吉備国際大学臨床心理相談研究所紀要』 第11号.
- 24) 小林俊雄 (2015b) 患者の診断の調査結果 37頁-38頁, 「言語連想検査法WAT-IIの患者117名の刺激語の分析」 25頁-45頁, 『吉備国際大学研究紀要 (医療・自然科学系)』 第25号.
- 25) 岩原信九郎 (1969) 「CR臨界比」 166頁, 『新訂版 教育と心理のための推計学』 12版, 日本文化科学社.
- 26) 岩原信九郎 (1969) 「 χ^2 の表」 432頁-433頁, 『新訂版 教育と心理のための推計学』 12版, 日本文化科学社.
- 27) 小林俊雄 (1989b) 「反対語反応」 29頁, 『言語連想検査法—WAT-IIから見た心の世界』 誠信書房.